

## 平成 28 年度 第 36 回 JANS 若手研究推進委員会交流集会のご報告

去る平成 28 年 12 月 11-12 日に東京国際フォーラムで開催された第 36 回日本看護科学学会学術集会にて、4 回目となります若手研究推進委員会主催の交流集会を開催いたしました。本年度の若手研究推進委員会交流集会は、学術集会のテーマでもあった「国民の幸せをもたらす制度設計と看護研究」を意識し、若手研究者である私たちが政策と看護研究の関係をどのように考えられるのかという点に焦点をあてました。準備した席もほぼ満席となり、大盛況のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様ありがとうございました！以下、交流集会概要のご報告です。

### 交流集会テーマ：若手研究者の小さな一歩が社会の歩みとなるために

研究の成果を政策課題に結び付けるとはどのようなことなのか、そのために何を意識し研究を計画し、どのように実施していくのか。若手研究者が戸惑うであろう課題に対して、若手研究推進委員会委員の大澤絵里さんから、制度・政策策定の基本的なプロセスと研究者が寄与しうるポイントについて、国際医療福祉大学の荒木田美香子先生に、研究の発展プロセスとその成果が制度・政策にどのように結び付くのかを、過去のご経験も踏まえ、話題提供をしていただきました。2 つのお話ともに、政策の立案のステップを理解し、どのステップでどんな看護研究が、制度・政策策定に貢献できるのかを理解するための基本的な内容だったのではないのでしょうか。また、荒木田先生から若手へのメッセージであった「早くライフワークとなる研究課題を見つけること」「早く博士をとること」「研究成果を出すこと」は、当たり前ですが、若手のうちにはコツコツと確実に研究を実施し発表していくことが、政策に通ずる研究に携われる第一歩であるということを再確認するメッセージでした。また、先生の研究者としてのポリシーである「来たオファーは断らない」という姿勢も、政策に結び付く看護研究を実施できるチャンスを逃さない！ために研究者として持つべき姿ですね。

#### ★参加者のアンケート一部ご紹介★

- 自分の研究が政策に結び付くという発想はありませんでしたが、新たな視点を得られました。
- 自分自身の研究のあり方をどう考えていけばいいのかといった事がわかった
- 政策はとても遠い印象でしたが、政策と研究がどのようにつながっているかを、丁寧に説明して下さったのでわかりやすかったです。
- 看護職も学生のうちから政策に関与するということの教育が必要だと感じました。

